

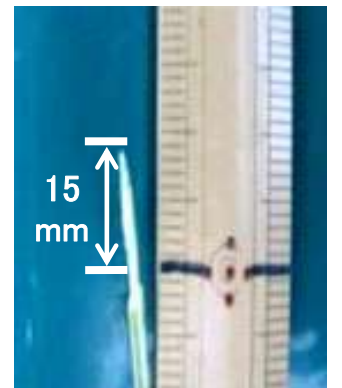
なのはな米1等比率95%以上を目指そう!! ~「R5 JAなのはな米品質向上運動」実施中~

- コシヒカリの生育は、草丈は平年並み・茎数はやや少なめ・葉色は平年並みとなっていますが、ほ場による生育差が大きくなっています。今後も気温が高くなると予想されるため、**幼穂形成期（幼穂長2mm）は7月9日頃**と見込まれます。
- 今後も生育状況を的確に把握し、適切な穂肥施用で過剰着粒を防ぐとともに、水管理や基本防除を徹底し、良質米の生産につなげましょう。

1. コシヒカリの穂肥

(1) 肥効調節型基肥栽培の場合

原則追肥は不要です。ただし、出穂の7~10日前（7/21~24頃）に葉色を確認し、葉色が4.0（砂壤土は4.2）以下の場合、登熟期間中の稲体の活力維持のため、出穂の3日前までに追肥3号を5~7kg/10a施用しましょう。



1回目穂肥施用時の幼穂長(15mm)

(2) 分施栽培の場合

生育状況を確認し、生育に応じた穂肥を施用しましょう。

- 1回目穂肥：倒伏や過剰着粒を防ぐため、生育量に応じて慎重に施用
- 2回目穂肥：登熟期の稲体活力維持のため、確実に施用

【分施栽培の穂肥の目安：5/12田植、追肥3号を使用する場合】

1回目穂肥施用時の生育量と施用量 幼穂長15mm：幼穂形成期（幼穂長2mm）の8日後					2回目穂肥	
生育量	草丈	葉色	施用時期	10a当り施用量	施用時期	10a当り施用量
適正	82cm未満	3.6程度	7月18日頃 幼穂長15mm	10kg	1回目穂肥の 7日後	10~13kg
やや過剰	82~87cm	3.8程度	7月20日頃 幼穂長20mm	7kg以内		
過剰	87cm以上	4.0以上	施用しない		7月24日頃 幼穂長10cm	10kg以内

2. 水管理

(1) 幼穂形成期~出穂期は飽水管理 ~飽水管理で根の活力を維持!~
足跡に水が残る程度になったら入水し、常に土が潤った状態を保ちましょう。

(2) 出穂後20日間は湛水管理 ~湛水管理で登熟を向上!~
出穂期から20日間は湛水状態（田面が出ない程度）を保ち、稲体の活力を維持しましょう。



【飽水管理】
足跡に水が残っている状態

3. 病害虫防除

今年も斑点米カメムシ類が多発しています。基本防除と合わせて畦畔等の草刈りをしましょう

- ・田植日等により出穂期が異なるため、防除前には必ず出穂状況を確認しましょう
- ・全品種2回の基本防除を徹底し、斑点米の発生を防ぎましょう
- ・防除の際は農薬の使用基準を正しく守るとともに、農薬飛散防止のため、風のない時に散布しましょう

【防除時期の目安】 ※田植時期は、てんたかく：5/4頃、コシヒカリ：5/12頃で推定

体系	防除時期	てんたかく		薬剤名	10a当り散布量
		(7/15出穂)	コシヒカリ (7/31出穂)		
粉剤	穂揃期 (穂が9割みられたら)	7/18頃	8/3頃	ラブサイドキラップ粉剤 DL	3~4kg (収穫14日前まで)
	傾穂期 (穂揃期の7日後)	7/25頃	8/10頃	トレボンスター粉剤 DL	3~4kg (収穫7日前まで)
粒剤	出穂10日前頃	7/5頃	7/21頃	フジワンラップ粒剤	4kg (収穫30日前まで)

農作業の際は、こまめな水分・塩分補給や適切な休憩など、熱中症対策を徹底しましょう!